

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570700306		
法人名	有限会社 清瀬ホーム		
事業所名	グループホーム清瀬の里		
所在地	山口県下松市清瀬町3-1-10		
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果市町受理日	令和 1年 6月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成31年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の運営理念を元に、自立した生活が送れる生活環境作りや、家庭的なぬくもりや癒しのある住まいづくりを心がけ、利用者の方の希望や思いを形にして、充実した共同生活が営めるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地産地消の旬な食材や畑で採れた新鮮な野菜などを使って、栄養バランスを考慮されて、利用者の好みに応じた献立を作成されています。季節に応じての行事食、バイキング料理、お好み焼きパーティー、利用者の誕生日に巻き寿司、ちらし寿司などの好きなものを提供されている他、利用者と職員は同じものを一緒に食べられたり、移動バン屋で好きなパンを買われたり、個別の外食などで食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるよう支援をされています。外部研修は情報を揭示され、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供されています。今年度は職場の活性化、口腔ケア、リスクマネジメント、看取り研修等に参加され、復命研修で共有されています。内部研修は年間計画を作成され、管理者や職員が講師となり、食事の重要性、感染症対策、自己評価作成などに取り組まれるなど、事業所としての学びの機会を大切にされ、職員の質の向上に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24.25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19.39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12.13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31.32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社内研修で理念の勉強会や話し合いをすることで理念を理解しようと試みている。理念に掲げている「人として尊厳のある生活」や「家庭的なぬくもりや癒しのある住まいづくり」等を積極的に推進するための意識付けを様々な場面で発信することで理解を深めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。代表者や管理者、全職員は月1回の職員会議時に理念について確認している他、内部研修で地域生活の継続支援や事業所との地域関係などを認識、共有して理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小中学校の体験学習や職場体験を受け入れている。小学校の運動会やバザー、持久走大会や運動会の応援等、見学参加している。現在、毎朝、数名の小学生がホーム敷地内の清掃活動に自主的に来てくれ、入居者とも日常的に交流がある。また、下松市介護ボランティアの受入や事業所の行事(夏祭り、お月見、餅つき等)で地域の方を招き実施している。その他いきいきサロンへの参加、介護相談員さんとの情報交換など、他施設への行事参加も行っている。	職員は年2回の草刈りや河川清掃、溝掃除に参加している。利用者は自治会の運動会、どんど焼きに参加、交流している。隣接している小学校より毎朝、数名の小学生が挨拶に訪れ、事業所の敷地を清掃している。小学校の運動会に利用者は見学に出かけたり、ふれあいバザーでは買い物を楽しむなどで交流をしている。地区の運動会のパン食い競争に利用者は参加し、楽しんでいる他に、民生委員の紹介で地域の「いきいきサロン」への参加や他事業所の夏祭りにも参加している。事業所の夏まつり、月見会、餅つきには地域の人の参加がある。ボランティア(お話しの会や習字)の来訪や書学生のふれあい学習、中学生の職場体験の受け入れをしているなど、地域の一員として日常的に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の体験学習では、歌やリコーダー、昔の遊び(輪投げ、折り紙)等を一緒に行うことで顔見知りとなり、学校訪問の際は、小学生の方から声をかけてくれるような関わりが出来ている。近隣の小学生体験学習や中学校の職場体験を通して、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人に向けて活かしている。事前に小学生に向けて何を伝え、どう展開するかを職員間で話し合い、臨むとさらに良い貢献ができると感じる。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価結果に基づいて、内部研修計画を立て、課題を明確にすることで意識改革含め、知識、技術の向上を図っている。主に、ケアプランへの内容の充実と実践を重点的に進めている。月1回の研修以外にもカンファレンスを取り入れ、少人数での研修も行っている。ケアプランを意識しての記録作成にも取り組み、全体の理解も深まっている。まだ課題も多いため、継続して行う必要がある。	管理者は月1回の職員会議時に外部評価の意義について説明している。職員は前年度の各自の書いた自己評価を振り返りながら、新たに記入したものを管理者がまとめている。前回の外部評価結果を活かして初期対応及び応急手当や災害時の地域との協力体制の構築、利用者の食事の内容(形状など)食事環境の充実を目標達成計画に掲げ、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター職員や認知症サポーター、第3者委員の方々等、様々な立場からの意見を参考にし、主に利用者の支援方法の情報の一つとして役立て、サービス向上に生かしている。今年度は災害時の緊急連絡網の地域との連携体制の確認を実施し、会議メンバーからの助言で地域の消防団を連絡網にくみこむことを検討している。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、活動内容、事業所の取り組み、避難訓練等について報告をし、意見交換をしている。消防署の協力を得ての防災訓練時の説明や豪雨災害の経験からの災害時の井戸水の供給、連絡網の作成などについて報告、意見交換をしている。連絡網に地域の人の加入の検討をしている。意見や情報をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者及び入居待機者状況を毎月提出している。また、地域包括に運営推進会議に参加して頂きながら事業所や具体的支援について相談、助言を頂いている。それ以外にも市の介護保険係に定期的に来訪し、サービス基準や、利用者状況を報告し、実情を理解して頂き、様々な協力をして頂ける環境作りに取り組んでいる。	市担当者とは、書類提出時には直接出向いて相談している他、電話やメールで情報交換をして、協力関係を築いている。市主催の事業所連絡協議会に参加して情報交換をしている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をしている他、具体的支援について相談し助言を得ているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全管理、拘束しないケアの両面を考えながら取り組んでいる。事業所の具体的な取組として、玄関扉は施錠せず、中フェンスも簡単なものにしていて、いつでも開閉可能にするなど、閉塞感のない、環境づくりに配慮している。今年度より、身体拘束廃止委員会を設置し、年4回の委員会の開催し、その内容を社員会議で報告している。	マニュアルを作成している他、内部研修で「虐待について理解をする」というテーマで学び、職員は理解をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に施錠はしないで、外出したい利用者とは職員と一緒に出かけているなどの支援をしている。言葉による行動抑制について話し合いをしている。スピーチロックに気づいた時には管理者が指導している他、職員間で注意しあっている。今年度より身体拘束廃止委員会を設置し、年4回会議を開催して話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞報道等で福祉施設関連の虐待事案があった際は、内部研修にて取り上げ、自施設で虐待事故が発生しないよう注意喚起している。虐待の芽チェックリストも活用、具体的な不適切な声かけの内容を伝え、心理的虐待にならないように周知している。不適切な言動、行動には管理者報告を義務付け、速やかに会議やカンファレンスで適切な対応方法を考えるように周知している。介護者側のストレスや疲労にも気を配り、ゆとりをもって入居者に接することができるような業務改善案、具体的な確かな支援方法を常日頃から意識し、良い方法を考えている。前年度に比べ、言葉かけの内容に対しての注意喚起する回数は減ってきている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の改正等あるときは主に管理者が研修に参加し、職員に伝えている。利用者家族から相談を受けたときにはできる限り、説明を行うようにしている。地域密着型サービス事業者として関わりのある制度は直接保険者に相談することもある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の契約時、重要事項説明書や運営規定、利用料金、支払方法等疑問に思われていることを細かく説明を行い、不安や疑問点を解消していくように努めている。また、重説の改定時は御家族に書面にて改定内容を報告し、同意書をもらっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱をもうけ、要望等を投書できる環境を整え、対応している。第3者委員も設置し、苦情受付する環境を整えている。実際に苦情や相談を頂いた際は、内容を精査し、会議で取り上げ、苦情内容の周知、注意喚起、対応方法等を全員で協議し、今後の対応結果を御家族に報告している。今年度から入居者、入居者家族からだけでなく、職員からの相談等を受けつける体制を整え、要望等があった際には検討し、今後の対応等を考えていく。	契約時に相談、苦情受付体制や第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。面会時や電話、年1回の家族会、行事開催時(夏まつり、月見会、餅つきなど)等で、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。介護相談員の来訪が月1回あり、利用者から話を聞き、事業所に伝えている。ケアについての要望にはその都度対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、業務改善案等の意見を聞き、職場環境改善になるようにしている。また、会議内だけでなく、日常から相談しやすい環境を作り、共に試行錯誤する機会を設けている。今年度は、掃除用具の整備、脱衣場整理、玄関レイアウト等、主にハード面の環境整備を行った。	代表者が出席する月1回の職員会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は個人面談以外にも日常業務の中で聞いている。脱衣場など物を置く場所の環境整備などの提案を受け入れている他、業務の希望、希望休、勤務体制の変更などを話し合い、調整して反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は毎月の社員会議に出席し、現状把握、及び社員の意見を聞くように努め、業務改善を図れるよう努めている。また、キャリアパスにおける職務等級表を作成し、等級や職務手当、処遇改善給付手当等を周知理解してもらうことで給与体系整備も図っている。また、内部研修を充実させることにより、業務への理解、事業所としての専門性の確立を図っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修及び外部研修計画を作成し、実践した。昨年度は運営理念理解等において必要な項目確認を行ったり、かかりつけ薬局の薬剤師を招き、薬への理解を図る等、様々な機会を設けて能力向上を図った。また、外部研修の復命として研修参加者から様々な業務改善案を実際に提案してもらい、業務改善を行った。	外部研修は、情報を掲示して、職員に伝えている。段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は職場の活性化、口腔ケア、リスクマネジメントなど、年5回受講して内部研修時に復命をしている。資料はいつでも閲覧できる。内部研修は年間計画を作成、管理者や職員が講師となり、月1回の職員会議時に食事の重要性、感染症対策、自己評価作成などについて実施している。新人研修は日常業務の中で業務マニュアルに基づいて、教育係の2名の職員を中心に指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市内のグループホーム連絡協議会に管理者が参加し、情報交換を行っている。他施設の運営推進会議や行事への参加も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化は高齢者には不安なことが多い為、入居時は特にしっかりかかわり、不安を解消できるようなケアを心がけている。その中で利用者本人やご家族の方の希望、要望も伺う機会を設け、その情報を職員が把握、理解し、アセスメントからケアプラン作成へ繋げていけるような道筋を組み立てている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に入居申し込みに来られた際に、グループホームの概要や内情、利用料金などの、当事業所の話を行い、不安や疑問の解消に努めている。また、現状で家族の困っている話や希望、要望を受け止め、入居された時にグループホームでの生活において配慮すべきことも含めてコミュニケーションを図っている。希望要望は早い段階で確実に周知できるよう、ノート以外にメモ、口頭で伝え情報を共有することで、対応職員が替わっても家族とスムーズに話ができるようにすることで信頼作りを図っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに来られた際、本人や家族の要望や困っていることをきちんと把握し、情報を関係者へ伝えるようにしている。希望、要望、今できること、していることを確認し、ケアプランに組み込み、サービス実践に繋げている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の昔の生活歴や背景を理解し、生活してこられた環境に少しでも近づくような環境づくりを心がけている。家事等、出来ることは利用者同士で、また、職員と一緒に話をしながら行うことを意識している。また「ありがとうございました」という言葉を大切にしている。同じ視点で生活空間を共有し、共に過ごす、生活するという意識で入居者の方へ配慮している。言葉遣いも併せて気をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や、夏祭り等で家族を招待する場を設けたり、管理者が御家族へ外出の提案を働きかけたり、年間を通して家族が参加できる行事を開催し、食事を食べたり、ゆっくり一緒に過ごす時間を提供できるような工夫をしている。また、面会時に近況を話し合い、生活用品の準備や衣替え、定期的に洗髪してもらったりなど、家族の協力を得ながら支援できている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の方が来訪されたときには家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごしてもらえるように努めている。都合上、関係構築が困難で、遠方等で対応できないときは、仕事で昔働いていた会社のことを話したり、なじみの場所へ外出している。年賀状、電話、ドライブで馴染みのある笠戸島や以前暮らしていた家を訪れるなどの支援をしている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、職場の元同僚の来訪がある他、年賀状や暑中見舞状、電話でのやり取りなどの支援をしている。自宅周辺のドライブ、馴染みのスーパーでの買い物、馴染みの理・美容院の利用などの支援をしている他、家族の協力を得ての夕食、一時帰宅、外泊、墓参り、葬式への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況が把握できるように少しの変化にも対応できるようにしている。例えば孤立しないような席の配置(席替え)別フロアへの移動等変化を加えている。また、レクリエーションや日常の生活援助から入居者同士の良好な関係性の構築をすすめている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出時で退居された方の家族に出会った時には声をかけて頂いたり、こちらが挨拶しお話しすることもある。お月見行事への参加も呼び掛けており、元利用者御家族がお抹茶を立ててくださっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の希望や意向を汲み取るために日常的に会話の中で様々な情報収集を行っている。昔はどんなことに興味があったか、使い慣れた物は何か、大切にしていることは何か、今したいことは何か等聞き取り、広い視点で利用者の思いを探っている。思いを伝えることが困難な利用者には御家族等から聞き取りし、どのような些細な情報も拾い上げるように努め、記録している。	入居時に基本情報で生活歴、暮らしの様子、習慣、趣味などを把握している。日々の関わりの中での利用者言葉、体調の変化、夜間の様子などを行動記録に記録している他、環境整備状況や受診の記録などを業務日誌に記録して、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は家族からの情報を得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで本人や家族に話を聞いたり、家族の把握している生活歴の情報を聞き出し、これまでの暮らし方が分かるよう把握に努め、GHでの生活に生かせるようにしている。それをフェイスシートの情報として記録ノートに添付することで全職員が把握し、情報を共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の過ごし方(服装、排泄、体調等)に気をつけ、よりよい生活を送ってもらえるよう努めている。過程として、現状の把握(同じように行動することで変化に気づく)、把握した内容を業務日誌や個別ノートに記入する。その後、管理者、職員に報告、連絡、相談をして情報を共有するという流れで対応している。また、気づき、状態の変化があるときには特記事項に記入したり、転倒リスクボード(個人ボード)に書き、職員全体に共有できるように伝えている。レクや家事等で行動を共にすることで利用者の能力や変化に気づくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録の中でサービス計画書のサービスを行った時、併せて記録ノートにサービス番号で記載することによって、モニタリング時に実行しているサービスを把握している。毎日の小さな変化も記録するようにしており、勤務でない時間帯の情報も共有している。関係者との話は、家族や本人に理解してもらうように、面会時に介護計画書の説明を行っている。その介護支援計画を、各個人の記録ノートに添付することでサービス提供側が都度充足度の確認ができ、統一された方向で支援しやすく、達成度が把握できるようにしている。課題や意見の抽出は計画作成担当者が行っている。本人、家族はもちろん、全ての職員が様々な意見やアイデアを出せる機会を設けることで、現状に即した介護計画を作成することができている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。日々の行動記録に実施状況と達成状況を記録することで6ヶ月毎のモニタリングと見直しにつなげている。利用者の状態の変化が生じた場合は、その都度見直して現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録で「行動記録」「ケアプラン番号」「ケアプラン達成度、職員コメント」と項目を分け、気づきを重視してモニタリング、見直しに生かしている。また、介護計画も各個人別に記録ノートと一緒に保管し、いつでも閲覧できるようにしている。以前に比べ、入居者支援情報等の把握がノートに集約されることで、把握がしやすくなっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人の個別支援に重点を置き、個々のしたいこと、できることを生活の中で把握し、その情報を共有し、柔軟に支援できるような体制を整えている。いきいきサロンへの参加や理美容、外食、買物を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員さんや小中学生の体験学習の受け入れや地域のいきいきサロンへの参加、出張美容、介護ボランティア協力の元、習字教室やお話しボランティアを活用している。災害時の地域連携として連絡網に民生委員や認知症サポーターの連絡先を入れ、協働で地域の災害対策を強化する方法も取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と定期的に(1回/2W) 日常の入居者の様子、他院への受診状況などを情報交換し、指示を仰いで状態に合わせた薬を処方してもらっている。また、かかりつけ医だけでなく、本人や家族の希望する皮膚科、泌尿器科、眼科、歯科など適切な医療を受けられるよう支援している。服薬についてはかかりつけ薬局と連携を取り、様々な助言をもらい看護師中心に職員へ情報を共有している。	利用者、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の定期的な受診を看護師の支援で行っている。受診情報としてバイタル等の記録を持参している。他科受診は家族の希望に応じて事業所が支援をしている。受診結果は面会時や事業所だより送付時に伝えている。職員間では業務日誌や看護日誌で共有している。夜間や緊急時は看護師の指示を受け、協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間問わず、入居者の状態報告を受け、適切な指示、処置、受診が行えるよう、利用者の状態変化を細かく報告している。看護師もノートに記載し、情報が共有できるような体制にしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に看護サマリーを作成し、入院時は病歴・ADL等の情報を医療機関に伝え、円滑に対応してもらえるよう支援している。また、サマリー以外にも事前に入居者の治療について本人、御家族の希望を確認し、治療方針を確認している。入院中は定期的に面会に行き、経過確認するとともに、御家族、Dr、看護師、MSWと話し合い情報を共有し、退院時に連携することで円滑に退院できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は入居者の状態が重度化した時に今後の方向性や思いを家族から聞き、家族、医師、看護師と方針を決め、終末期ケアの方針を決定している。現状として本人の思いを把握できていない。職員により、当事業所としての看取りの指針や方法も理解できていないのが現状である。この課題を解決方法として、まず、定期的内部研修にて看取りの指針、内容の理解、利用者が重度化する前から本人の思いを確認し、計画的に実施していく必要がある。今年度から計画的に内部研修に組み込んでいるが、継続的に、終末期のあり方について、理解を深めていく必要がある。	契約時に看取りと重度化に関する指針に基づいて、事業所が対応できるケアについて家族に説明している。実際に重度化した場合は「重度化指針における対応確認書」を交わし、家族の意向を聞き、主治医等と医療機関や他施設への移設、看取りについて話し合いをして、方針を決め共有して取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日中及び夜間を想定した緊急対応マニュアル、事故予防マニュアルを作り、常に確認できる場所に保管している。また、職員会議で緊急時対応実践研修を看護師中心に行い、急変時や事故発生時の初期対応を実践できるようにしているが、初期対応の訓練は、次年度以降も引き続き継続して内部研修を続けていく必要がある。 その他、業務日誌内にヒヤリハット欄を設け、インシデントの段階で記載をしてもらうようにし、管理者を中心に主に会議内で対応策を話し合っているAED、救急講習も行っている。継続実施し、全体の実践力の向上が必要である。	ヒヤリハットについては、発見した職員が業務日誌の連絡事項に記録し、事故については事故報告書に発見者がその日職員と話し合い、原因や改善策を記入している。事故件数の多い転倒については転倒マニュアルに沿って原因を究明し、対応方法を話し合い、再発防止に取り組んでいる。事故発生時の備えとして感染症対策や誤嚥時の対応、消防署の協力を得ての救急救命講習を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。民生委員、地域包括支援センター、消防署立会の通報訓練、避難訓練を行っている。指導や助言を受け、会議内で全職員に周知している。年2回の内、1回は抜き打ちで避難訓練を行い、突発の対応も確認している。速やかに外に出れるように避難経路に物は置かない等日常からの予防にも注意を払っている。火災だけでなく、他の災害時は、避難等の対応方法が変わる為、災害知識、マニュアルの把握を徹底し速やかに実践できるように必要がある。	年に2回(1回は消防署の協力を得て)火災時の夜間想定避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者と一緒にやっている。1回は事業所独自で運営推進会議時に防災訓練を消防設備点検業者と共に、メンバーの参加を得て初期消火、避難誘導を実施している。民生委員や介護相談員、認知症サポーターの協力を得て緊急連絡網を作成している。	・防災体制の強化

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴とその背景を把握するとともに、人格を尊重し、利用者の誇りやプライバシーを損ねる声かけや対応をしないよう気をつけている。特に言葉遣いには注意し、職員同士で確認し合うようにしているが、呼び方、言葉の節々、介助者側の所作等、改善すべき部分はある。 入浴介助や排泄介助は、本人のプライドを傷つけないよう異性介助を嫌がる方は同性で対応するなど注意を払っている。人と時と場面により声のトーンを落とすなど、プライバシーに配慮している。	内部研修で接遇を学び、職員は理解をして、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている他、職員は確認し合うようにしている。気になることがあれば管理者は利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや態度などを指導している。個人記録の保管や取り扱いにも注意している他、守秘義務についても理解し、徹底している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から入居者の方の思いを感じ、職員の介入が必要かどうか判断し、必要があればさりげなく支援することで、利用者が自己選択・決定できるよう努めている。入浴、週1回の出張パン屋にて自身でパンを選んだり、おやつの時間では日により、好きなおやつや飲み物を選んでいただく、また、広告や本などを一緒に見て本人の欲しいものを聞いたりしている。散髪、買い物、外出の希望等も含め、日常会話の中で、わかりやすい言葉で表現し、何を求めているのかを理解し、今したいことを実践に繋げることができるように努めている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出かけたいときになるべく自由に外に出られるように支援を心がけている。お金を持ち、パンを買いに行く、近隣のスーパー（アルゾ、ローソン）に日用品や食料を買いに行く、近所の自動販売機でジュースを購入するなどしている。入居者の生活のペースに合わせ、できること、したいことは本人が行うことのできるような環境の設定を支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、毎日同じ服にならないよう配慮しつつも、着る順番、色、枚数など自身で選んでもらうこともある為、きれいに着ているか確認している。(下着の袖、シャツの裾等) 女性は首元にスカーフやマフラー、帽子を身につけたり、毎日、化粧水や乳液、入浴後には保湿、髪形、化粧等を行っている。男性は月1回散髪、毎日髭剃り、首元にマフラー、帽子などおしゃれを楽しんでいる。なるべく本人の好みを尊重したケアをしている。 起床から就寝の間に入居者の身だしなみ(髭、眼脂、髪の毛、爪の長さ)を観察し、その都度支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を取り入れた献立にし、食べやすい形態、味付けにして食事作りをしている。誕生日には好みの献立とし、季節ごとの行事食やバイキング料理を取り入れている。台所から聞こえてくる調理の音、美味しそうな香りが、耳や鼻や目を楽しませることができるようにしている。特に昼食は一汁三菜、果物を基本に舌も目も喜ぶような味付け(醤油味、味噌味、中華味、洋風)と変化をつけて、季節の料理もなるべく作るようにしている。ホームの畑で取れる野菜も使用している。入居者の誕生日には好きなメニューを作り、行事ではクリスマス、おせち、節分、ひな祭りメニューなど提供している。クリスマスにはバイキングにしてお寿司の希望に合わせた献立を立て提供した。一緒にお好み焼きや焼きそばを作ることもあり、非常に好評であった。調理職員も含め、一緒に食したり、季節や誕生日など毎日の献立を考え、食事を楽しんで頂けるよう支援している。入居者が嫌いなメニューや食事形態も把握し、配慮している。食事の後片づけは自発的に行ってくれる利用者の方とテーブルを片付けてもらったり、お盆を拭いてもらったり一緒に行っている。環境面においても、食器の形や色、重さに気をつけている。また、コントラストがはっきりする色、持ちやすいお椀、軽い器など、負担のないようにしている。	栄養士の資格を持つ職員と調理担当職員3人を確保して、3食とも事業所で食事づくりをしている。畑で採れた新鮮な野菜や地産地消の食材を使い、利用者の好みに応じて献立を作成している。利用者は盆拭きや食器洗い、食器拭き、片付けなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食卓で同じものを一緒に食べている。利用者の誕生日には好きなもの(巻き寿し、ちらし寿し、ハンバーグ等)を献立に入れたり、季節の行事食(おせち、雛祭り、クリスマス等)やバイキング料理、お好み焼きパーティ、おやつづくり(ホットケーキ、バレンタインチョコづくりなど)、移動パン屋で好きなパンを買う、個別の外出に出かけるなどの他、家族の協力を得ての外出など、利用者が食事を楽しめるように工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が月1回の栄養価計算を実施し、カロリー、量、栄養バランスを確認している。一人一人の体調に合わせてご飯の量を決めたり、粥食、ミキサー食で対応している。栄養と水分摂取量には特に気を配り、水分摂取量の少ない入居者は、ゼリーや本人の好きな飲み物を提供したり、時間をずらすなどして工夫している。特に水分摂取量の確認が必要な入居者にはチェック表を作り、1日の水分量を確認している。また、10時、3時のお茶も、コーヒー、紅茶、緑茶だけでなく、生姜葛湯や甘酒なども提供している。その他、毎月体重測定を行い、体重の増減の変化にも気を配り、変化がみられるときは調理職員にも情報を伝え、食事量の変更等、全体で対応している。糖尿病や持病を持っている方にも食事量を考慮したり、禁止食材に注意して個別に用意したり栄養バランスの調整をしている。また、たんぱく質が不足しないように気をつけている。油濃い物ばかりにならないよう、酢物等、さっぱりした物を組み合わせるよう工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、義歯を使用されている方は、夜間洗浄剤で消毒している。口腔内の状態に合わせ、口腔用ウェットティッシュや綿棒を使用して清潔に努めている。歯ブラシやコップも毎日洗浄、消毒し、衛生面に配慮している。また、緑茶を提供し、殺菌作用、口臭予防している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者別に排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう促している。訴えはなくても、表情や行動でも排泄に気づくような観察も併せて行っている。また、尿量などに合わせてパットの使用をしている。その他日中、立位保持が可能な利用者はトイレ誘導し、トイレで排泄するという習慣をなるべく継続している。同時に腹部マッサージ排泄の自立に向けた支援をしている。	事業所独自の排泄チェック表を活用して、時間を見計りながら利用者一人ひとりに応じた声かけをして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の実施や水分補給、野菜摂取、家族からの要望でのお汁にワカメやオリーブオイルを使用している。その他、おかゆも芋粥を取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。起床時に白湯の補給、寒天ゼリーやヨーグルトなど、おやつやデザートに提供している。便秘が続いている方には処方された排便促進剤を使用し、排便のコントロールを行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日15時～18時の間に入浴を行っている。体調や気分の変化を観察し、入浴拒否する方へも声掛けの方法、タイミングを変え、さりげない誘導を行い、入浴してもらえるように支援している。浴室、脱衣場など、設備、温度管理に努め良い環境を作ることで入浴を楽しんで頂くようにしている。また、同性介助を希望する利用者へは職員間で連携し可能な範囲で対応している。なるべく浴槽に浸かってもらえるように努めているが、浴槽内へ入る協力動作がない入居者は設備上の理由から浴槽に浸かれないことが多く、シャワー浴のみとなり、清潔保持優先になっている。福祉用具活用、入浴時間のゆとり設定等の意見等を取り入れ、浴槽に浸かれるような方法を全体で検討していく必要がある。	入浴は毎日、15時から18時の間にゆっくりと入浴できる支援をしている。体調に応じてシャワー浴や清拭の対応をしている。入浴したくない人には言葉かけの工夫や時間の変更、職員の交代など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団やシーツの清潔に努め、布団の素材にも配慮している。肌にあたるシーツのしわ、寒暖の室温や湿度調整、居室の明るさ等配慮し、気持ちよく眠れるように心がけている。眠れないときには温かい飲み物の提供やリビングで職員の傍で一時的に過ごしてもらい、落ち着いてから再度休息を促す等、利用者が安眠できるように支援している。その日の体調に合わせて臥床、離床のタイミングをはかり、夜間のオムツ交換もそれぞれの状況・排泄量に応じて、トイレへの誘導や、オムツ、パット等の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師主体で服薬準備を行い、配薬(確認者捺印)及び服薬、空袋の確認は職員2名以上で行い、3回のチェック体制を敷いて誤薬と服薬ミスがないようマニュアルとして定めている。また、服薬確認表に薬の種類、用法、用量一覧を作成し、変更毎に更新している。確認表は常時閲覧できるようにしている。薬の変更があればボードや個人ノート、会議での報告で情報を共有、交換できるようになっている。内服の形状など本人の内服状態に合わせて考えて、薬剤師と相談し、変更してもらい服薬がスムーズに行えるように心がけている。服用後の状態変化も短期的、長期的に観察している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活にて主に洗濯物やゴミ捨て、食後の片づけ、新聞折り等、利用者に行ってもらっている。これまでの生活歴を把握し、得意な役割(できること・したいこと)を担ってもらっている。レクリエーションでは、レイアウト作成、カラオケ、野菜の収穫、パンの好きな方と昔なじみの店(防府)まで外出し、食パンの購入、週1回の出張パン屋さんにてパンの購入、カンロ飴が好きな利用者の買物外出、行きつけだった美容院への散髪外出等行い、張り合いや喜びのきっかけとなる環境を提供できるように配慮している。また、地域の方々やボランティアの方々との協力により、演奏会、お話し会、歌コンサート、書道などを楽しまれている。特に習字は書道展へ出品し賞を頂き、御家族からも喜ばれている。	テレビ視聴(相撲、水戸校門、歌番組など)、カラオケ、詩吟、縫い物、ぬり絵、計算ドリル、習字、玉入れ、ラジオ体操、忍者体操、畑仕事(草取り、収穫など)、花の水やり、台拭き、下膳、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、金魚の餌やり、地域の行事(餅つき、どんど焼き、節分)、芝居見学、七夕まつり、花火大会、夏まつり、月見など楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣では、畑や小学校などの敷地内周辺から、洋服屋、ドラッグストア、百貨店等、車を利用し、希望に合わせた外出を行っている。遠方の外出は、頻度は少ないが、季節ごとに様々な場所へ出かけ、気分転換を図っている。希望する外出場所を入居者からリクエストしてもらった場所へ行くこともある。家族の協力にて外食や自宅へ帰宅、墓参り、法事などの外出も行っている。	散歩や買い物(デパート、ドラッグストア、自動販売機)、小学校の運動会、バザー、笠戸島(思い出の場所)、スポーツ公園、冠梅園、花見(梅、しだれ桜、バラ、ポピー)、家族の協力を得ての法事の出席、墓参り、一時帰宅、外食など戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に少額の金銭を管理し、使って頂いている方もいる。週1回のパン購入時に家族から預かり職員管理している小遣いを渡し、自身で購入して頂いている方もいる。財布を持つことで安心される方も1名いるが、金銭を自身で所持、管理することは困難な方も多く、希望もされていないのが現状である。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族と電話で話したいと希望する利用者へは家族に協力を得たりしている。毎年、年賀状を出せるよう支援している。また、希望があれば電話や手紙も支援できる体制であるが、そういった希望は現時点ではほとんどない。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、室温や湿度、明るさ、臭い等へも気を配り、建物の立地条件、日照時間等、明るく快適空間で過ごすことができる環境作りを心がけている。リビング壁面には、日めくりカレンダーや様々な作品、歌の歌詞、季節や行事に合わせた飾付を行い、少しでも興味を持ってもらえる空間づくりに努めている。また、また、車椅子使用の入居者も多いことから、歩行の妨げにならないような家具の配置を心がけているが、安全管理も含めて見直しが必要である。	玄関には季節の花が生けてある他、金魚の水槽があり、憩える居場所となっている。リビング、ダイニングは明るく、テーブル、椅子、ソファは利用者が動きやすいように配置されている他、畳のコーナーもあり、ゆっくりとくつろげるようになっている。厨房からは食事の準備をする音やお茶を入れる香りが漂ってくるなど、生活感がある。壁面には利用者の習字の作品や折り紙、ぬり絵の作品、行事の写真が飾ってある他、大きな日めくりが利用者に気づきやすい場所に掛けてある。明るさ、温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで自由に過ごして頂けるようソファや畳、一人用テーブルを設けている。玄関ホールや庭で自由に過ごせるスペースも設けている。状況に応じて模様替えも定期的に行い、より良い住環境の提供を考えている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室は大切にしている物、使い慣れた物(洋服、小物類)も置いて頂き、家族の写真等も飾っている。時折、配置換えや壁掛けの整理整頓をし、安全で居心地よさの追求の為、工夫している。状況によっては、物を置くことで、本人にとって不利益になったり、他者に迷惑のかかる状況にもなることもある為、考慮しながら居心地よく過ごせる工夫をしている。また、身体介護が必要な入居者は、車椅子のスペース等の確保のため、本人の希望を生かすことが困難であり、介助側の思いが強くなることもある。	居室にはベッド、寝具、タンス、鏡台、化粧品、テーブル、椅子、衣裳掛け、掛け時計、誕生日プレゼントなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、誕生日の写真、額などを飾って利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人にあわせて、家具の配置や手すりの設置、段差をなくす工夫、トイレに大きな目印(提灯)をつけるなど、視覚等の五感でも感じて理解して頂き、なるべく自立した生活を送れるよう工夫している。その他、福祉用具の積極的な活用で、出来ることをなるべくして頂く支援を、介護的な側面からも支援している。トイレや風呂などの案内は文字や明かりだけでなく、ロゴを活用すると分かりやすいと思う。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 清瀬の里

作成日: 令和 元 年 6 月 26 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (1 5)	緊急時の初期対応及び応急手当などの実践力が身についていない。	介護職員全員が、緊急時対応と応急手当の理解、及び実践力を身につけ、全員が講師役を務めることができるような実践力等を身につける。	①実践力は座学だけで習得できないこともあるため、当ホームにおける最低限必要な場面別、症状別の応急手当をあげ、どの部分において、実践力が身についていないかを調査し、その課題が解決するための、研修方法も含めて検討し、内部研修内で実施する。 ②今年度の内部研修は、管理者、看護師のみならず、他の職員を講師役に任命し、緊急時対応方法に関して研修会を開催する。	1年
2	36 (1 6)	当ホーム災害時の対応として、地域の実情を踏まえた災害時の強化ができていない。	災害時等における入所者支援において、地域の実情を踏まえ、適切な対応を行う。	①運営推進会議時、問題点の報告、助言の活用 ②災害時における地域資源活用に伴い、近隣の小学校や他の避難場所避難方法について情報収集及び関係者と協議を図る。併せて、保険者とも災害対策に関し協議を行う。災害前、災害中、災害後を区分けしそれぞれに必要な対応を見直す。 ③反省、改善点の確認(年1回連絡網確認、災害対策の会議実施)	
3	41	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援について 利用者の状態変化に伴う終末期のあり方について、事業者としての指針等の共有、看取りに対しての考え方、実際のケアの方法の共有ができていない。	今後、終末期ケアに携わるときの為に、事業所としての指針を全体で共有し、方向性が統一された支援を実践することができるようにする。	①内部研修で、看取りについての考え方、指針について説明し、事業所全体での終末期ケアの考え方を共有する。 ②現在入居している利用者の方へ、今後の生活についての希望を聞き、終末期の本人の思いとして確認する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。